

日本漢方協会通信

2021年11月

薬草園青空研修会が開催されました ～2021年10月3日(日) 於 東京都薬用植物園(小平市)～

今年度も秋へ延期となりましたが無事開催できました。少人数の全8班体制で屋外の薬用植物を観察しました。



漢方薬原料植物区の観察

漢方生薬となる植物は多いので解説員を3名配置、班どうしの距離も確保しながら観察。



民間薬原料植物区の観察

手前はマメ科エビスグサ。種子は決明子(ケツメイシ)で、「はぶ茶」の原料でもあります。



製薬原料植物区の観察

生薬には調製せず成分を抽出して利用する植物。使い方次第では有毒植物でもあります。



染料香料植物区の観察

和洋のいわゆるハーブ、スパイスが数多く集められた植栽区です。手前の葉はウコン、ガジュツ。



有毒植物区の観察

身近にも意外と多い有毒植物。植物毒に関する理解も大切です。



ロックガーデンの観察

風通しを良くして山地性植物を集めている植栽区。これらの中には薬用植物も多く存在します。



ミシマサイコ (セリ科)

柴胡剤の中心をなす、漢方における重要な薬用植物です。生薬名はサイコ(柴胡)。



ウコン (ショウガ科)

漢方薬方にも使われ(中黄膏)、カレースパイスとしても身近です。生薬名はウコン(鬱金)。



ゲンノショウコ (フウロソウ科)

センブリ・ドクダミと並ぶ、わが国の代表的な民間薬です。生薬名はゲンノショウコ(現の証拠)。

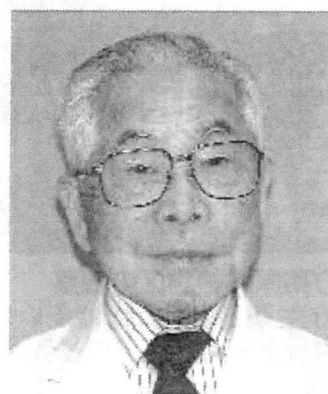
日本漢方協会通信

2021年 11月

山田光胤先生

ありがとうございました

当協会の2代目講師団長で、現在は名誉講師をなさって頂いていた山田光胤先生は10月10日に97才で天寿を全うされました。当協会にご尽力をいただき感謝しております。



漢方は、明治7年の「医制」により、正式な医学から、外辺医療となってしまいました。それ以来、漢方を正式な医学に復活することが漢方家の悲願でありました。

山田先生が日本東洋医学会の会長をなさっていたときに「漢方専門医」制度を作ったことは、その後の漢方復権におおきな原動力になりました。東洋医学会の会員は1万人となり、日本医師会の部会に認められ現在に至っております。

先生の略歴

本名照胤 大正13年(1924)東京で出生 医師 神職

幼児期は体が弱く大塚敬節先生に救われたとのこと。父親が鶏屎白を採取していた話をなされたことがあります。

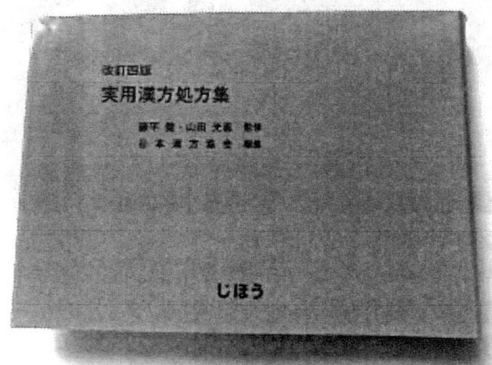
太平洋戦争時、陸軍士官学校。

戦後に医師を志して昭和26年(1951年)東京医科大学を卒業。

昭和33年(1958年)東京医科歯科大学にて医学博士授与学生時代から大塚敬節先生に漢方の教えを受け、漢方治療の第一人者になられました。日本東洋医学

会名誉会員

皇風会山田医院・山田漢方医学研究所・金匱会診療所・北里大学東洋医学総合研究所・山田光胤記念漢方内科渋谷診療所の責任者を歴任なさいました。



じほう

書籍多数